

事業コード	H17-農-再-12		区 分	国庫補助 県単独
事業名	治山事業(水土保全林整備事業)		部局課室名	農林水産部 森林整備課
事業種別	補助事業(治山事業)		班 名	治山防災班 (tel) 018-860-1943
路線名等	戸賀		担当課長名	佐々木 誠
箇所名	男鹿市戸賀塩浜字戸賀		担当者名	主幹兼班長 浅野 昌成
総合計画との関連	政策コード	C	政策名	快適で安全な生活を支える環境づくり
	施策コード	02	施策名	災害に強い県土づくり
	指標コード	04	施策目標(指標)名	保安林整備面積

1. 事業の概要

事業期間	H12 ~ H21 (10年)	総事業費	11.3億円	国庫補助率	55%	
事業規模	溪間工 3基、山腹工 2.2ha、森林整備 50ha					
事業の立案に至る背景	男鹿半島戸賀湾に面した当計画地の山腹斜面の地質は変質粗面岩類を基盤岩とし、その上に火山噴出物等が覆っている状態のため脆弱で度々人家付近に山腹崩壊している。また、溪流では火山噴出物が浸食され、生産された土砂礫は降雨時に下流に土砂を流出していることから早急に対策工事を実施するものとする。 地元からも早急に対策工事を要望されている。					
事業目的	人家裏の荒廃地等の整備、松くい虫被害林の森林整備を実施し保全対象を守るため、地域防災対策総合治山事業を実施する。 保全対象 人家78戸 道路2,500m 畑1ha					
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)		計 画 時	評 価 時	増 減	理 由 等	
	事業費	1,060,000	1,125,000	65,000	山腹工面積の増	
	経費内訳	工事費	1,040,000	1,097,000	57,000	
		用補費	0	0	0	
		その他	20,000	28,000	8,000	
	財源内訳	国庫補助	583,000	618,750	35,750	
		県債	429,000	455,000	26,000	
その他		0	0	0		
一般財源	48,000	51,250	3,250			
事業内容	溪間工 3基 山腹工2.0ha 森林整備 50ha	溪間工 3基 山腹工2.2ha 森林整備 50ha	山腹工 0.2haの増			
事業の進捗状況	平成16年度未投資事業費 488,703千円 (43%) 山腹工 0.9ha 森林整備 14ha					
事業推進上の課題	なし					
関連する計画等	整備対象区域内で県道湯本・加茂・船川港線のバイパス工事					
情勢の変化及び長期継続の理由	自然災害や松くい虫被害により、人家裏斜面の荒廃が顕著なことから、地元住民の生命財産を守るため事業の要請は高い。					
事業効率把握の手法及び効果	指標名	保安林の累積整備面積(ha)				
	指標式	整備面積累計				
	指標の種類	成果指標	業績指標	低減指標の有無	有 無	
	目標値 a	5,180 ha		データ等の出典	保安林整備面積調査	
	実績値 b	6,387 ha				
達成率 b/a	123.3 %		把握の時期	平成17年3月		

前回評価結果等	選定または継続	改善	見直し	保留または中止
	指摘事項			
	なし			
	指摘事項への対応			
なし				

2. 所管課の自己評価

観 点	評 価 の 内 容 (特 記 事 項)	評 価 点
必 要 性	計画地は国定公園内で保全対象の県道湯本・加茂・船川港線は観光ルートとして重要な路線であり、また塩浜・浜塩谷集落の人家78戸の保全を図るため本事業は必要である。松くい虫被害が拡大し壊滅的な状況にあることから、被害木の除去や樹種転換が望まれている。	13点
緊 急 性	自然災害や松くい虫等により森林荒廃が顕著であるため、早急に整備が必要である。「あきた21総合計画」において「災害に強い県土づくり」に位置付けられている。国定公園内に位置するため周辺環境や景観に影響が大きい。	16点
有 効 性	保安林の累積整備面積の向上に直接寄与する事業であり、施策目標「暮らしを守る森林づくり」への貢献度は高い。本事業区域には、崩落土砂流出危険地区14箇所、山腹崩壊危険地区7箇所が指定されており、事業実施により危険地区の解消が図られている。	20点
効 率 性	事業の費用便益比は2.19であり効率性は高い 総費用 1,093百万円 総便益 2,393百万円 森林整備において、松くい虫被害木を移動式チップパーにより破砕し作業道の路盤材として活用することで、コスト縮減を図った。	20点
熟 度	市町村から事業施行申請があり、合意形成が済んでいる。市役所でも地元要望や治山施設の必要性について認識しており合意形成が済んでいる。山腹工において、現地形を修正することなく現存木も残して工事が可能な工法を採用し、周辺の自然環境、景観等の保全に十分配慮している。	20点
判 定	ランク () すべての観点において評価点が高く、住民の安全・安心な暮らしを実現する上でも優先度の高い事業箇所であり、継続して実施すべきと考える。	89点
総 合 評 価	継続 改善して継続 見直し 中止 各観点の評価結果から、事業実施箇所として優先度は高く、事業は継続して実施すべきと考える。	

3. 評価結果の当該事業への反映状況等(対応方針)

計画どおりの完成を目指し、事業を実施する。

4. 公共事業評価専門委員会意見

県の評価及び対応方針を可とする。

評価種別 継続箇所評価
適用基準名 水土保全治山事業

事業コード(H17-農-再-12)
箇所名 (男鹿市戸賀塩浜字戸賀)

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要
必要性	事業の必要性				
	社会経済情勢変化による需要変化	増大している 特に変化はない 低下している	5 3 1	3	
	事業の進捗状況				
	進捗率	計画より進捗している 概ね計画通りである 計画より遅れている	10 5 1	5	
	今後の進捗見込み	課題は解決済みで順調に推移する 課題はあるが当面進捗に影響がない 課題解決が困難である	5 3 1	5	
	計		20	13	
	緊急性	災害発生危険度			
土石流・山腹崩壊の兆候		早急な対応が全体的に必要 部分的には早急な対応が必要 緊急ではないが将来的に必要	5 3 1	3	
直近の災害発生		発生から3年以内 発生から4年～10年以内 それ以上前の記録がある	5 3 1	3	
事業の影響					
事業未実施の影響		事業効果や効率性、周辺への影響が大 事業効果や効率性、周辺への影響が小	5 1	5	
他事業との関連					
他事業との関連		他事業が関連し、緊急性が高い 今後他事業計画があり緊急性はある 将来的にも他事業計画はない	5 3 1	5	
計		20	16		
有効性	当初計画からの具体的効果				
	保安林整備面積	50ha以上 30ha～50ha未満 30ha未満	10 5 1	10	
	山地災害危険地区の解消	5地区以上 5地区未満	5 3	5	
	上位計画への貢献度				
	あきた21総合計画	施策目標の中核事業であり貢献度が高い 施策目標に間接的に貢献する 施策目標とは別のその他関連事業である	5 3 1	5	
	計		20	20	
効率性	事業の投資効果				
	費用対効果	B/C = 2.0以上 B/C = 2.0未満	5 3	5	
	コスト縮減の検討				
	コスト縮減計画	実施している、または、今後実施する予定 実施していない、または、検討中	5 1	5	
	当初計画との比較				
当初計画事業費との増減	減少または微増(10%未満) 増加(10%～30%未満) 激増(30%以上)	10 5 1	10		
計		20	20		
熟度	地元との合意形成の状況				
	地域住民の事業実施の意向	意向が強く要件の同意をクリアしている 意向が強く要件の同意を概ね得ている 要件の同意を得ていない、または、調整中	5 3 1	5	
	地元市町村対応	説明会を実施している 市町村要望書がある その他	5 3 1	5	
	地域の推進体制	事業推進協議会等が設立されている 今後検討する余地はある	5 1	5	
	環境との調和への配慮状況				
環境保全への配慮	十分に配慮されている 配慮しているが不十分である 配慮していない、または、検討中	5 3 1	5		
計		20	20		
合計			100	89	

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
	優先度がかなり高い	80点以上		
	優先度が高い	60点以上～80点未満		
	優先度が低い	60点未満		